

平成26年度 大阪高等学校 学校評価

1 めざす学校像

1927年（昭和2年）、旧制中学校として創立以来、知育・徳育・体育の調和のとれた全人教育を追求すると共に、時代の変化を見据えた新たな教育目標である「未来へ、世界へひらく自己の確立」を掲げ、ユニークな進学校を目指します。

- ①学力を多面的に捉え、向上を図る ②進路観を振り起こし、希望進路の実現を図る
- ③学校行事・部活動の充実を図る ④基本的生活習慣の確立を図る

目指す学校づくりとして

1. 学習活動と特別教育活動の両面を充実させ、人間的成長と希望する進路の実現を図る学校
2. 生徒・保護者および地域から愛され、信頼されるとともに、安心で安全な学校
3. 広報活動を充実させ、より多くの中学生・保護者に理解いただき、支持を頂ける学校

2 中期的目標

1 学び続ける力の育成

- (1) 学力の向上に取り組む
- (2) 指導力の向上に取り組む
- (3) 授業姿勢の改善に取り組む

2 問題解決力の育成

- (1) 大高文化創造の柱として学校行事の充実に取り組む
- (2) より一層の生徒会執行部活性化に取り組む
- (3) 大高への帰属意識を高めることに取り組む
- (4) ルール遵守を基盤に学習集団育成に取り組む
- (5) 女子生徒指導のあり方追究に取り組む

3 選択する力の育成

- (1) 進路実現のための学習を乗り越えた学習に取り組む
- (2) 興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習に取り組む
- (3) 社会的・職業的に自立するための学習に取り組む

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

自己評価アンケートの結果と分析 [平成26年11月実施分]	学校評価委員会からの意見
<p>○「自己評価」に関して</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全家庭に保護者アンケートを郵送、無記名回答。回収率94.1% ・生徒は2学期期末試験最終日にアンケートを実施。教員はアンケート配布、回収。 ・前年度とは若干のアンケート項目を変更した。 <p>生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定評価上位2項目 <ul style="list-style-type: none"> A「大阪高校に入学してよかったと思いますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝74.7% 1年＝80.6% 2年＝67.8% 3年＝74.7% B「大阪高校のクラブ活動は全体として活発に活動していると思いますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝73.9% 1年＝80.6% 2年＝70.0% 3年＝70.7% ・肯定評価下位2項目 <ul style="list-style-type: none"> Y「自分なりの目標や課題をもって、日々の授業や家庭学習に取り組んでいますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝49.5% 1年＝48.4% 2年＝45.3% 3年＝51.1% Z「学校生活の様々な場面を振り返り、自分は目標をもってひたむきに頑張ってきたと思いますか」 肯定評価の割合：全校生徒＝62.9% 1年＝63.9% 2年＝56.3% 3年＝68.0% <p>○保護者（上記項目に対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> A 肯定評価の割合：全保護者＝86% 1年＝88% 2年＝84% 3年＝86% B 肯定評価の割合：全保護者＝77% 1年＝79% 2年＝74% 3年＝78% Y 肯定評価の割合：全保護者＝68% 1年＝66% 2年＝65% 3年＝73% Z 肯定評価の割合：全保護者＝75% 1年＝76% 2年＝72% 3年＝76% <p>○教員（上記項目に対応）</p> <ul style="list-style-type: none"> A 肯定評価の割合：全教員＝77% B 肯定評価の割合：全教員＝77% Y 肯定評価の割合：全教員＝53% Z 肯定評価の割合：全教員＝73% 	<p>第1回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献に幅がでてきていることに感謝申し上げる。地道な活動だが、これからもよろしく願いたい。 ・このような機会を頂き、大阪高校の教育内容を直に知ることとなった。現代の教育的課題に真摯に取り組まれている姿勢に共感する。外部発信に協力したい。 <p>第2回</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大高生は清掃活動など地域での評価が高く、本当に変わった。その要因を今後に生かしてもらいたい。 ・入学後の満足度の数値は評価できる。ただし、消極的肯定（どちらかといえばの但し書きが付く肯定）を冷静な分析が必要な時期に入ったのではないかな。 ・充実を望むことの回答が増加した項目といきいきと日々を過ごす意欲の原資の回答が増加した項目に注視すると、大阪高校に求められていることの変化を感じる。進学校化している証であり、成果が求められている自覚が必要だ。 ・教師の肯定率が保護者よりも低くギャップがあるように見えるが、教師の方が厳しくて正常だ。 ・否定的な意見にもヒントがある。現代はクレームもヒントになる時代だ。 ・長年大阪高校を見てきたが、ここ数年間の好転振りを本当に評価したい。
<p>【分析】</p> <p>「生徒」は10項目、「保護者・教員」は20項目のアンケート。「生徒」の自己評価は全体的に辛め。別の角度から見るとまだまだ改善の余地・伸び代があるということ。「保護者」は肯定的評価が7割弱から9割弱にあり、本校に対する信頼の一端を感じている。</p> <p>三者に共通する相対的な課題は、自律的学習活動に関することである。ただし「保護者」からの肯定的評価は10ポイントほど上昇しており、単年度で改善している成果が現れつつあると思われる。</p>	

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学び続ける力の育成	<p>(1) 学力の向上</p> <p>ア 新たな学習教材の導入</p> <p>イ 実力・模試の活用</p> <p>ウ 朝学習の実施</p> <p>エ 補講・補習の導入</p> <p>オ 夏季学習合宿</p> <p>(2) 指導力の向上</p> <p>ア 研修会の充実</p> <p>(3) 授業姿勢改善</p>	<p>ア 各学年の課題を明確にし、基礎学力向上を図る。</p> <p>イ 各学年での重点目標設定</p> <p>ウ 各学年の状況に応じた取り組み</p> <p>エ 向上実感が持てる取り組み</p> <p>オ 全学年希望制で募集し、自学自習の充実を図る。</p> <p>ア 集団づくり&リーダー育成のポイント</p> <p>ア クラスづくりの視点</p>	<p>ア 生徒一人一人の学びなおし</p> <p>イ 1年：学習時間の伸長 2年：試験の意識づけ 3年：進路検討会活用</p> <p>ウ 時期に応じたタイムリ一さ</p> <p>エ ボトムアップとブルアップ</p> <p>オ 参加者数</p> <p>ア 参加者の成長実感</p> <p>ア 情報共有化</p>	<p>・基礎学力向上の原動力にならなかった。個別対応の煩雑さ。PC利用の課題。学びへ誘う困難さ。PR活動不足。</p> <p>・実施前のPR活動や対策、事後の分析は一定の成果があった。ただし、情報の格差・鮮度に課題がある。</p> <p>・例年以上の取り組み内容。内容の精選の時期か。朝学習の遅刻者指導が課題。</p> <p>・どの学年、コースとも取り組みが増加した。卒業生だけでなく、在校生が後輩に語る「先輩に聞こう」も実施。</p> <p>・若干の減少。ただしクラス間格差あり。特に総合進学コースの参加者が減少した。情報の共有化が課題。</p> <p>・フリートークがいつになくできた。実践報告会の形式を検討する必要性があると感じた。</p> <p>・各学年工夫があり、特に1年生の落ち着きが顕著であった。実践の蓄積や学年・教科への課題・情報発信が弱かった。</p>
2 問題解決力の育成	<p>(1) 自治活動の充実</p> <p>(2) 帰属意識の向上</p>	<p>ア 生徒会活動の活性化</p> <p>イ 体育祭</p> <p>ア クラブ参加率の向上</p> <p>イ 出席率98%のクラスづくり</p> <p>ウ ルールの浸透</p> <p>エ 制服にこめられた意味を考える</p>	<p>ア 生徒会執行部</p> <p>イ 団対抗戦</p> <p>ア 女子の加入率</p> <p>イ 週単位のブロック指導 毎月・每学期ごとの学年指導</p> <p>ウ 教師側の姿勢</p> <p>エ 学校の歴史を生徒に伝える</p>	<p>・牽引力のある本校初の女性会長と目的意識の明確な執行部員だった。その執行部を下支えする意欲的な自治活動教員団が重なり活性化が図れた。</p> <p>・執行部の要望で実現。達成感の相乗作用。その体験が卒業式や文化祭の活動に波及した。</p> <p>・昨年度と変化なく、女子は50%弱の加入率にとどまった。その中でも創作ダンス・和太鼓・吹奏楽部などいくつかのクラブでの女子加入率の伸びは大いに参考としたい。</p> <p>・出席率の向上を生徒の変化とどう結びつけられるかが課題。</p> <p>・処分件数、人数とも減少。HRを窓口ルールは浸透するものだから、担任を支える教師集団の役割が重要。</p> <p>・DVDを通して、本校の歴史とそれを背景として作られている制服の相関関係が理解されつつある。</p>
3 選択する力の育成	<p>(1) 生涯学習の基盤づくり</p> <p>・進路実現を乗り越えた学習</p> <p>・興味関心を深め、自学自習を楽しむ学習</p> <p>・社会的・職業的に自立するための学習</p>	<p>ア 進路ガイダンスの重層化</p> <p>イ 進路実現のための情報収集</p> <p>ウ 読書レポート</p>	<p>ア 校内の人的資源と校外の人的資源の活用の促進</p> <p>イ 目標の明確化</p> <p>ウ 次のステージに繋げる取り組み</p>	<p>・本校教職員、卒業生、大学、専門学校、一般企業などと連携し、1年生では4回、2年生では3回、3年生では6回の活動を行なった。講師の評判も良く、継続発展が望まれる。</p> <p>・先輩（社会人や大学生）の体験談やオープンキャンパスに参加することで、目標や課題が明確になった。</p> <p>・進路実現だけでなく、学び続けることを大切にするために実施した。関係資料を読破し、内容を吟味、そしてレポートを作成する。前向きに取り組む姿勢に最高学年としての自覚と自らに向き合う姿勢が見られ、3年間での成長の歩みを感じることができた。</p>